



2021年4月8日

内閣総理大臣 菅 儀偉 殿
外務大臣 茂木敏充 殿

認定 NPO 法人日本 BPW 連合会
理事長 平松 昌子

要望書

米国内で発生しておりますアジア人排斥行動拡大の解決に向けて
近く予定されております、日米首脳会談でご尽力いただくよう要望いたします。

私ども、認定 NPO 法人日本 BPW 連合会は、国連・経済社会理事会の諮問的地位を有する国際女性組織 (International Federation of Business & Professional Women) に加盟する NPO として、女性たちの権利をまもり、女性が地域や職場で、そして家庭で生き生きと活動し、女性という理由で差別を受けることのない社会の実現において活動してまいりました。そして、内閣府の男女共同参画推進連携会議の団体議員として、SDGs の第 5 目標であるジェンダー平等の実現に内閣府と共に取り組んでおります。

昨今の米国での人種差別運動の激化を受け、米・ボストン在住のフィッシュ・東光・厚子さん*が、ボストンで差別的被害を受けたことから、ご自身の体験をもとに、人種差別および女性差別への抗議声明を発表しました。フィッシュ・東光・厚さんは、ご夫君と共に家族財団を設立し、日本女性の自主性の向上や社会貢献のための研修活動などを行ってこられ、私どもの団体もその活動に協力してまいりました。フィッシュ厚さんは、これまでの社会貢献活動に対して、大統領表彰や日本政府からの叙勲から叙勲を受けております。そうした活動をしているフィッシュ・厚さんが現地で人種差別行為を受けたことを知り、米国での人種差別行為が極めて深刻であること、また多くの日本人がその被害にあう可能性が広がっていることに、大きな憂慮を抱きました。

こうした人種差別行為の一つ一つが重なって市民感情を刺激し、広く日米関係・あるいはアジアにおける国際関係にマイナスの影響をもたらす恐れもあり、国連が掲げ、そして日本政府も署名している SDGs 実現において活動している私ども BPW としては、「世界は多様性を認めることから始まるというダイバーシティ&インクルージョン (多様性を尊重し、誰一人とり残さない社会を追い求める姿勢) に逆行するこうした行為に強く反対を叫ぶ次第です。

このたび予定されている日米首脳会談において、この問題をとりあげていただき、これらの差別問題に対して善処すること、東京オリンピック・パラリンピック 2020 のテーマでもある『Diversity & Inclusion』の重要性を再確認していただきますよう、お願いする次第です。

以上

フィッシュ・東光・厚子さんによる抗議声明

先日、道ばたでマスクをしていない家族とすれ違いました。私が「マスクはどうしたんですか？」と尋ねると、父親が厳しい口調で「国に帰れ！」と私に向かって言いました。また、別の日には自転車に乗った女の子に後をつけられ、どこに住んでいるのかと尋ねられました。私が自分の家を指さして玄関に向かっていくと、「あんたはこの国に住むべき人でないでしょ！」と言われました。

私は日本出身で、妊娠7か月で40歳だった1983年に、夫と3歳の娘と一緒にボストンに移り住みました。私はアメリカで築いてきた生活に誇りを持っています。そして、私はアジア人女性として、そしてまた日本の武家の子孫として、自分が受け継いできた文化と歴史に誇りを持っています。私たちアジア人に向けられた暴力—特に女性や若者、そして高齢者に対する暴力—に強く抗議します。共に声を上げ行動を起こしましょう。そのために、このメッセージを書く決断をしました。

夫のラリーと共に、フィッシュ・ファミリー財団を米国マサチューセッツ州ボストン市で1999年に立ち上げました。財団では、マサチューセッツ州に住む移民の支援、社会的困難な状況に置かれているハイリスクな若者支援、そして日本の女性リーダー育成事業をしています。特に移民支援は、私自身が移民であることから、非常に重要な支援です。日本の女性リーダー育成事業では、100名以上の卒業生を輩出しました。彼女たちは、社会変革に向けて大きな成果を上げている非営利活動に従事する女性リーダーたちです。また、Asian Task Force Against Domestic Violence (ATASK)で理事長を10年間務め、ドメスティック・バイオレンスなどの暴力被害を受けたサバイバーのアジア人女性や子どもの支援をしてきました。ATASKの職員やクライアントとの活動経験は私にとっての貴重な経験となっていますが、それは同時にこの国に刻まれた構造的な人種差別とジェンダーに基づく暴力の歴史を思い起こさせるものでもあります。

アジア人女性として、私自身も路上やその他の場所で人種差別の対象になったことがあります。こうした経験の根底にあるのは、女性蔑視と、アジア人女性を過剰に性的対象とみる差別的意識です。同じアジア人の女性として、私はみなさんに呼びかけます。今がまさにこの沈黙を破る時です。現状を打開し、この問題について広く世界に知らしめる機会なのです。私たちは今、未来を変える力を持っています。その力を発揮し声を上げましょう。若い女性や女の子のロールモデルとして、私たちのルーツと豊かな文化を誇りに思っていることを身をもって示すのです。アメリカは、誰もが歓迎され、成功する機会が与えられる国なのだから。

共に行動を起こしましょう。私たちは今、歴史を作り、未来を変えようとしています。私たちは変化をもたらすことができます。We can make a difference!

フィッシュ・ファミリー財団共同創設者
JWLI エコシステム創設者
厚子・東光・フィッシュ

(注) 英語原文は、最終ページ

*日本BPW連合会は、フィッシュ・東光・厚さんが立ち上げたJWLI（日本の女性リーダー育成事業）



について、早期には会員が応募して派遣され、2009～2013年はその募集・派遣・報告事業を担ってきました。その後も、JWLIの理念を貫き、日本やアジア女性の能力開発や行動支援をすることで、よりよい社会を創ろうとする彼女との連帯を続けています。

フィッシュ・東光・厚子 Ms. Atsuko Toko Fishさんプロフィール

深い愛情とゆるぎない信念と情熱でさまざまな社会活動に携わっている女性です。1999年に創立した、ボストンにあるフィッシュ・ファミリー財団は、現在、移民、危険にさらされている若者、メンタルヘル스에苦しんでいる人々を支援することに焦点を当てています。2006年には、JWLI（日本の女性リーダー育成事業）をスタートしました。（前述）また、3.11をきっかけに、日本災害救援基金ボストン（JDRFB）を設立し、東北の即時および中期的な回復を支援するため、被災地域を数回にわたって訪問しました。基金が活動していた2年間で、JDRFBは約100万ドルを調達し、東北で直接活動している19の組織とプロジェクトに24の助成金を配布しました。

さらに、10年以上にわたってドメスティック・バイオレンスに対するアジアタスクフォース（ATASK）の理事長、およびシモンズ大学の評議員を務めました。そのほか、ボストン財団（TBF）、HANDS（健康開発サービス）、ジャパン・ソサエティ・オブ・ニューヨーク（JSNY）、および健康管理科学（MSH）の理事も務めました。彼女は現在、ボストン美術館（MFA）の監督者、およびバークリー音楽大学の諮問委員会メンバーを務めています。

以上の日米友好を促進した功績が認められ、2012年、日本政府外務省から外務大臣表彰を授与されました。さらに2013年には、ホワイトハウスからその功績（JWLIを通じた女性のエンパワーメントや東日本大震災直後の支援活動など）を称えられ、Champion of Challenge 賞**を授与されました。そして、2018年11月には日本の社会セクターにおける女性のリーダーシップの向上に貢献したことで、旭日小綬章を授与されました。

** <https://obamawhitehouse.archives.gov/champions/aapi-women>

Statement by Ms. Atsuko Toko Fish

Recently, out for a walk along a narrow road on Cape Cod, I passed a family wearing no masks. I asked them, "Where are your masks?" The father turned to me and said harshly, "Go home." On another occasion I was out walking, followed by young girl on her bike. She asked where I lived, so I pointed out my house. As she stopped and watched me go towards my front door she said "No. You don't belong here."

My name is Atsuko Toko Fish. I am originally from Japan. I came to Boston in 1983 when I was 40 years old and 7 months pregnant, with my husband and 3-year-old daughter. I have been fortunate and am proud of the life I have created in the U.S. I am also proud of my legacy as an Asian woman and a descendent of a Samurai family. I strongly condemn anti-Asian attacks targeting our community, especially women, youth, and the elderly. I am writing this letter to urge you to use your voice and stand with me in collective action.

My husband Larry and I created a family foundation in 1999. The Foundation serves immigrants in Massachusetts, an area I care deeply about as an immigrant myself; high and proven-risk youth; and leadership development for women in Japan. In Japan we have over 100 alumnae. They are women non-profit leaders making major strides towards social change. In my 10-year role as chair of the board of the Asian Task Force Against Domestic Violence (ATASK), I have served Asian women and children who were survivors of domestic violence and other forms of violence. I treasure my work with ATASK's staff and clients, but it is a reminder of this country's long history of systemic racism and gender-based violence.

As an Asian woman, I too have been a target of discrimination and racism. On the street and in the workplace. These experiences are deeply rooted in misogyny and hypersexualization. My fellow Asian women, this is our chance to break our silence. We must use this moment for good, as an opportunity to raise awareness of this issue. We now have the power to change the course of our future and respond. Let us speak up and show our strength. As role models to girls and young women, we must teach by example and show how proud we are of our heritage and rich cultures. America is the land of opportunity, a place where we are welcomed and have a chance to thrive.

I urge you to join me in collective action.

We can make a difference in our future together.

Atsuko Toko Fish
Co-Founder, The Fish Family Foundation